

さいたま市総合振興計画審議会第2部会
第1回部会の主な意見について（教育・文化・スポーツ関係）

- 資料においては、施設が増えた、対応できる人数が増えたこと等が掲載されており、「困っている人が減った」という本質の数値については示されていない。本質をよく見極め、根本をしっかりと把握して本質を改善していく施策を実施すべきである。
- 総合振興計画のほかに、分野別の様々な計画があるわけだが、この両者の整合は図れているか。齟齬をきたしているものはないか、留意すべきである。
- ノーマライゼーションなど、本来は特定分野だけでなく総合的・横断的に位置づけるべき考え方がある。基本計画ではなかなか難しいが、まとめ方の工夫が必要ではないかと感じている。
- 「スクールサポートネットワークの構築推進」とあるが、本来は学校教育の領域でもっと努力すべきで、足りない部分を地域が補うようにすべきと考える。
- 待機児童の問題など、未来の市民に対する施策が結果的に疎かになっているように思われる。未来を担う子どもたちに、何かを残す施策を考えていくべきだ。
- 現状で一番の問題は児童生徒の自殺や学校のいじめと考える。青少年の健全育成については、非行や犯罪の防止が本質なのではない。もっと根本的なこと、例えば家庭教育の大切さや地域社会がどのように対処すべきかを議論する必要があると感じる。問題のない子どもがほとんどであり、その子どもたちをどのように伸ばしていくかという施策も必要ではないか。
- 学校教育の場において、様々なプランを中心となって進めているのは現場の先生方であり、先生たちの意見をよく聞くべきである。
- 芸術文化の奨励は結構なことだが、例えば絵画なら絵を描く技術ではなく、絵画を通じて心を磨くことが大切と考える。文化を通じて何をするのか、それを基本計画にどのように反映するのか、考えていきたい。
- 「さいたま市文化芸術都市創造条例」が施行されたが、さいたま市らしさをもっと発揮するためにも、音楽・美術など多様な方面に目を向けるべきである。また、どのような支援があるのか見えづらい。市民と行政が意見を交わす場がもっとあってよいと感じている。
- 他の政令指定都市と比較すると、体育館の整備など、「スポーツのまちづくり」という点で立ち後れているように思われる。関連団体と市とのコミュニケーションもしっかりとやってほしい。